

第6学年2組 体育科学習指導案

【日時】令和7年7月24日（木） 10:20～11:05 【場所】佐賀市立体育館 【指導者】前山 純平

本授業の参観の視点

児童がマット運動で技の習得に向けて、「回る」ことや「支える」ことを意識しながら、運動の視点を使い、友達と共に動き方を高めていく姿をご覧ください。

1 単元名 マット運動（B 器械運動 ア マット運動）

2 単元の構想

(1) 単元について

マット運動は、マット上で体を支持したり、回ったりして、元の状態に戻るまでが面白い運動である。

マット運動では、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技の習得や、それを基にした発展技に取り組む中で、技ができる楽しさや喜びに触れることを狙っている。

低学年では個々の思いを重視したマットを使った運動遊びを行い、中学年ではマット運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、マット運動の基本的な動きや技を身に付けるようにし、高学年の個々に応じた発展・応用技に挑戦する器械運動の学習につなげていくことが求められる。

また、運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、決まりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることなどをできるようにすることが大切である。

(2) 児童について

- ・【楽しさ体験】本学級の児童（35名）は、49%（17名）が「マット運動が好き・どちらかといえば好き」と答えており、「技ができたら嬉しい」「いろんな技があるから」等を理由に挙げている。成功体験や技に挑戦することに楽しさを感じている。
- ・【児童が考える中核となる動き】マット運動で一番大切だと思っている動きを尋ねたところ、「回る（回転）」が9名、「立つ（着地）」が9名、「支える（支持）」が9名で、マットへのアプローチが大切だと思っている児童が多かった。また、一番できるようになりたいと思っている動きを尋ねたところ、「回る（回転）」が10名、「立つ（着地）」が10名、「支える（支持）」が10名であった。技の成功に関係するところや安定して技ができることを考えている児童が多いことが分かった。
- ・【阻害要因】「マット運動が嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた児童は51%（18名）おり、その理由として、「できる技が少ない」「他の種目より面白みがない」「痛い」「怖い」等を挙げている。このことから、成功体験や技能レベルの問題、器具への恐怖が強く関係していると思われる。
- ・【学び方の状況】これまでの体育の学習で、運動を面白くすることや運動を通した友達との関わり方について学んでいる。また、運動との出会いの場で面白さを共有し、探究テーマを児童とともに設定している。自己の課題に応じためあてを立てることができる児童が増えてきた。また、運動の視点をを用いた振り返りはできているが、実際の場面で運動の視点をを使って動き方を思考している児童は多くない。困ったことがあった際には、先生や友達に相談したり、資料を見たりすることを通して解決している児童が多い。体育の学習を通して、友達と一緒に活動することを好む児童が増え、友達と話したり、学習カードを見合ったりすることで友達と考えを共有している。

(3) 指導について

- ・【単元計画】できる喜びを味わいながら安全に活動するため、今できる技からスタートする。また、基本の技を「レベルアップ」、できそうな技に「チャレンジ」という考え方で単元を計画する。
- ・【中核となる動きの指導の工夫】前転や後転といった回転系は着手に始まり、その後、身体を回転させることで技として完成させていく。そのため中核となる動きを「回る（回転する）」とし、それを児童が意識できるように指導する。また、倒立やブリッジといった巧技系は着手の後、自身の体重を支える過程を通して技を完成させる。そのため中核となる動きを「支える（支持する）」とし、それを児童が意識できるように指導したり準備運動で取り組む時間を設定したりする。

- ・【活動の工夫】友達と技を見合い、アドバイスをしたり、一緒に伸びを喜んだりしてより達成感を味わうことができるようにグループで活動する。互いの技に点数を付け、その点数を付けた理由を友達へのアドバイスとすることで、動きと運動の視点をういたり、友達と高め合ったりすることができるようにする。本単元を通して、個人としてだけでなく集団としての力も高めていきたい。
- ・【思考力、判断力、表現力等の育成】運動の視点をういた価値付けを繰り返し行うことで、するだけでなく見る場面でも運動の視点をういるよさを実感することができるようにする。また、掲示物やワークシートへ視点を掲載することで、活動中の児童同士の会話でも使えるようにしていきたい。
- ・【安全面への配慮】安全のために、技を行う人とアドバイスを考える人（順番を待っている人）に分かれ、前の人がマットを降りてから次の人が行うようにする。マットの上を横切らないよう、周りをよく見て活動するように言葉をかける。また、取り組む技についての難易度が分かり安全にできるよう、学習カードに系統立てて示すようにする。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本単元における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。

ステージC 「他教科等」

- ・技ができてよかったね。かっこよかったよ。
- ・惜しかったね。あと少しで出来ていたよ。もう1回やってみよう。



相手の気持ちを思いやり、自分にできることは何かを考えて、進んで親切な行いをしようとする意欲を高める。(道徳科「親切、思いやり」【道徳的实践意欲】)

→ 相手の立場に立って自分にできることは何かを考えたり、温かい言葉かけをしたりしている姿を称賛する。

ステージB 「同教科」

- ・開脚前転は脚を開くタイミングをもう少し遅くして、勢いをつけてみよう。
- ・倒立ができる〇〇さんは、目線がマットの方を見ていたよ。



技のポイントなど分かったことや気づき・考えたことを実践したり、友達にアドバイスしたりしている。(体育科「ティーボール」【思考力、判断力、表現力等】)

→ 技のポイントを考えて実践したり、友達にアドバイスしたりしている姿を認め、称賛する。

ステージA 「同単元・領域」

- ・どうしたら、この技ができるようになるかな？
- ・速く回るとできそうだな。



マットで回転系や技巧系の基本的な技、鉄棒で支持系の基本的な技ができる。(【知識及び技能】)

→ 動きと運動の視点を紐付けて考えることができるよう問いかけたり資料を用いるように促したりする。

ステージD 「実生活・実社会」

- ・やった!できた!頑張って練習してきた良かった!



次の目標に向かってさらに努力する意欲を高めたり、将来の挑戦に対する心構えを形成したりしながら、挑戦や失敗を恐れず、学び続けることを楽しんでいる。(達成感、成功体験、向上心【学びに向かう力、人間性等】)

→ できたことを共に喜んだり称賛したりして、次の技への意欲を高める言葉かけや関わり方をする。

単元のゴール：
自分の動きを高めて、できる技を増やそう!

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

マット運動を楽しく行う方法を知り、中核となる動きを意識しながら、自己の能力に適した課題を運動の視点を使って探究することで、基本的な技を身に付け、楽しみ方を広げられるようにする。

(2) 評価規準

ア マット運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、回転系や巧技系の基本的な技ができる。 【知識・技能】

イ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるために活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。 【思考・判断・表現】

ウ 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲良く運動をし、友達の考えを認め、場や器械・器具の安全に気を付けて活動しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全5時間 本時4／5時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
【探究テーマ】マットの上で、技ができるか。					
		1	2	3	4（本時）
		【運動との出会い】 ・技調べ ・探究テーマの設定	めあて1 今できる技をレベルアップして楽しむ。 めあて2 もう少しでできそうな技にチャレンジして楽しむ。		5 まとめ
一	1	○単元や学習の見通しをもつ。 ○準備や片付けの仕方を確認し、持ち技調べをする。 ○探究テーマを決定する。	・学習の約束や進め方を説明する。 ・児童の言葉からマット運動の面白さを共有する。 ・児童が感じた面白さに紐付けて、探究テーマを決定する。	◆マット運動の面白さに触れ、その行い方を理解している。 【知・技】 ◆場や器具の安全に気を配りながら準備や片付けをしようとしている。 【主】	A B
二	2 3 4 本時	○できる技をレベルアップしたり、もう少しでできそうな技にチャレンジしたり、中核となる動きを意識しながら、動き方を考えて活動する。 ○友達と協働し、それぞれの課題を解決しながら、技ができるように活動する。	・中核となる動きを意識するように言葉をかける。 ・動き方を考えて、活動している姿を称賛する。 ・グループでの活動を仕組み、見合う中で、動き方について考えたことを伝え合わせる。 ・困っている児童に対し、その課題に応じた場を提供したり、解決の方法を共に考えたりする。	◆マット運動の基本的な技ができる。 【知・技】 ◆自己や仲間の動き方を考えて、活動している。 【思・判・表】 ◆友達の考えを認め、課題解決に向けて進んで取り組みようとしている。 【主】	A B C D
三	5	○できる技をレベルアップしたり、もう少しでできそうな技にチャレンジしたり、中核となる動きを意識しながら、動き方を考えて活動する。 ○友達と協働し、それぞれの課題を解決しながら、技ができるように活動する。 ○マット運動の学習について探究テーマに沿ってまとめをする。	・中核となる動きを意識してするように言葉をかける。 ・動き方を考えて、活動している姿を称賛する。 ・グループでの活動を仕組み、見合う中で、動き方について考えたことを伝え合わせる。 ・困っている児童に対し、その課題に応じた場を提供したり、解決の方法を共に考えたりする。 ・学習する中で感じたことや考えたことを言語化することで、楽しみ方が広がったことを価値付ける。	◆マット運動の基本的な技ができる。 【知・技】 ◆自己や仲間の動き方を考えて、活動している。 【思・判・表】 ◆友達の考えを認め、課題解決に向けて進んで取り組みようとしている。 【主】	A B C D

5 本時の指導（4／5）

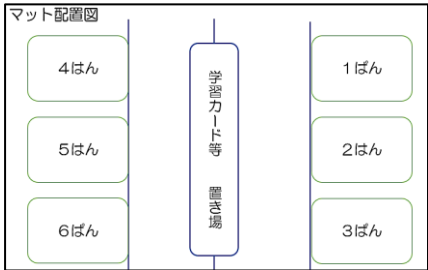
(1) 指導目標

中核となる動きを意識しながら、技に挑戦する中で、それ以外の動きに関しても運動の視点を用いて試行錯誤することで、運動の楽しみ方を広げることができるようにする。

(2) 評価規準

イ 技ができるようになるためにグループで活動を見合い、自己や友達のよさや課題について考えたことを伝えている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開（波線部は「回遊する学び」に関わる手立て）

学習活動と児童の反応 (□)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
1 準備・めあてに沿った準備運動を行う。(5分) ・ストレッチ等 ・川とびで足を高く上げて側転に活かそう。 ・しっかり手に体重をかけて、体を支えられるようにしよう。 2 グループで個人のめあてを確認し、共有する。(5分) ・着手をしっかりして、きれいに回ろう。 ・今日は、側転がきれいにできるようになるぞ。 ・マット2枚で3回前転してみよう。	1-(1)安全面に気を付けて準備をするように言葉をかけ、安全にできているか観察する。(B) 1-(2)体を温めながら、中核となる動きを意識するために、児童が本時で行う技の動きを取り入れた準備運動を行い、価値付ける。 2-(1)前時に出た動き方を整理したり、楽しみ方を広げる方法を提示したりことで、課題解決の方法を具体的にイメージできるようにする。(AB) 2-(2)個人のめあてを共有することで、友達の動きを見るための視点を共有する。
【探究テーマ】 マットの上で、技ができるか。	
3 活動を行う。(25分) 〈めあて1〉今できる技をレベルアップする。 【場の図】  ・マット2枚で前転を3回連続して、ふらつかずに立ち上がろう。 ・前転と後転を組み合わせた技がやりたい。 ・側転で手と足を真つすぐに着けるために、あと何に気を付けて取り組めばよいのだろう。 〈めあて2〉もう少しでできる技にチャレンジする。 ・友達に教わった目線に気を付けてやろう。 ・細いマットで落ちないように練習してみよう。 ・あと1点。アドバイスをもらった、膝を曲げずに立ち上がるだけだ。 ・やったー！できた！がんばってよかった。	3-(1)安全のための「着手」と、中核となる動きである「回る」(回転系)「支える」(巧技系)を意識できるように、言葉かけを行う。 3-(2)自分の課題を意識して活動できるように、どこを意識して活動しているかを尋ねて確認する。 3-(3)よい動き方を見付けたり、アドバイスをしたりできるように、点数をつけながら、互いに見合うようにする。(AB) 3-(4)動き方を意識して活動できるように、技ができるようになるためにしている工夫を児童に問いかけ、運動の視点を価値付ける。(A) 3-(5)お互いに思いやり、誰もが楽しく活動できるように、温かい言葉をかけて活動を盛り上げている児童を称賛する。また、マット運動が苦手・嫌いと感じている児童が達成感を味わえるように、褒めて頑張ったことを価値付ける。(CD)
4 片付けをする。(3分) 5 本時の振り返りを行う。(7分) ・背中を丸めると3回連続で回ってもマット2枚で前転ができた。 ・手の着きが弱くて側転でふらついたから、次は強く着くことを意識しよう。 ・友達にアドバイスをもらったことで技ができるようになった。	◆ 提示した点数について、動き方を理由として話すことができていますか。(観察)【思・判・表】 B 動き方についてアドバイスができる。 C→ 資料を確認し、もう少しの部分と一緒に考える。 4 安全面に気を付けて片付けをするように言葉をかけ、安全にできているか観察する。(B) 5-(1)動き方を意識できるように、見合ったグループでの振り返りを行う。友達と振り返りを行うことで、学び方を共有する。(AB) 5-(2)児童が最後の時間への意欲をもつことができるように、活動を称賛したり、意識した動きや運動の視点を価値付けたりする。